環境パートナーシップちば

だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 10

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　横山清美
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団 環境学習推進室内
電　話　043-246-2180
FAX　043-246-6969

「環境シンポジウム1999千葉会議」を終えて

実行委員長　山口　由富子

今年の「環境シンポジウム千葉会議」は、10月17日(日) シャープ㈱幕張ビルを会場として、総勢250名の参加を得て開催いたしました。

テーマは「持続可能な社会のために」。それはこの事業が日本財団補助事業としては最後の年となったこと。また、予算も昨年度と比べ半分以下に切り詰められたことなどにより「これからの環境シンポジウムの行方は？」との問いかけに対する、希望・期待・そして一抹の不安が交叉する実行委員会の中から生まれたものでした。

基調講演には、このシンポジウムを打ち立てたときの原動力となった小川かほる氏を招聘し、シンポジウムの生い立ちから現在を踏まえ、さらに未来を展望する気概を込めた講演をいただきました。

また、分科会においては、過去・現在の発表の場とするのではなく、「このシンポジウムを契機に、更なる発展と継続を約する場としよう」を合言葉に、市民・企業・行政のパートナーシップのもと、熱心に論議を重ねて参りました。

結果として、概ねのご好評をいただき、ほっと一息ついております。しかしこれは、委員長を辞した安堵のそれではなく、分科会の中から新たなる発展と持続の確たる息吹を感じ取ったからです。そのひとつに「シンポジウムを立ち上げよう！」という茂原市・市原市の輩出があり、我々「環境パートナーシップちば」に至っては、環境シンポジウム千葉会議と共に成長をみた経過を考慮するならば、我々も立ち上がり、この継続に傾倒することは、全くやぶさかではないはずです。

「持続可能な社会のために」これからも、皆様のいっそうのお力添えを賜りたく、ご報告に重ねまして、お願い申し上げる次第です。

コラム

「地域から始めよう パートナーシップ」

副代表
川原　啓佑

つい先日。「手賀川のガシャモクがまたピンチなら、何か協力しますよ。」との頼もしい電話がありました。昨年、絶滅危惧種の水生植物保存のため佐原市から再三かけつけ、堤防工事の計画変更に踏み切ってくれた建設省工事事務所の課長でした。まさに地獄に仏。思案にくれていた対策作業のネックが一挙に解決。建設省からポンプ等の機械と休日に職員スタッフの助っ人まで借りて、市民グループとの大池水干し大作戦の段取りがトントンと進みました。国立科学博物館、県立中央博物館、高校教諭の生態系専門家からも続々と助言や協働を頂き、わが「環境パートナーシップちば」の大目的「市民・行政・専門家のパートナーシップによる環境保全」の小モデルが誕生しました。

このほか、この流域では①手賀沼ふれ愛フェスタ②手賀沼ビオトープ③我孫子環境レンジャーなど、以前は考えられなかったパートナーシップ活動が、今年スタートしました。どれも課題は多く、これからが正念場です。しかし各パートが目的で一致する限り協働すれば、環境の未来は拓けると信じています。

「環境シンポジウム千葉会議」のこれまで。こらからは、あなたが。

（環境シンポジウム千葉会議1999基調講演から）

TEA NET　小川　かほる

1．はじめに

本文は10月17日にエコメッセちばの賛同行事として、シャープ幕張ビルで開催された「環境シンポジウム千葉会議1999」の基調講演にお話させていただきました内容の一部です。はじめは、千葉会議の方向性を検討するためのヒントとなるようなお話ができればと考えていましたが…、それはこれからかかわる人が新たに創るものですから、千葉会議のスタートを事務局として係ってきました私にしかできない、これまでの経過をお話させてもらいました。

2．千葉会議のスタートはエコマインド養成講座

今、私達の世界は、環境問題・平和問題・人権問題・南北問題・貧困問題・開発問題・人口問題・資源エネルギー問題などの地球的課題が、複雑にからみあっていてそれらを解決しないと、人類を含む多くの生き物の存在が危ぶまれています。

エコマインド養成講座は、千葉県環境部が1993年に始めた環境学習指導者養成講座で、「こころの教育」を全面にだしたものです。環境科学についての知識の一方的な伝授といった講義形式ではなく、「価値明確化・コミュニケーション能力・他者の受容・合意形式」といった態度や能力の獲得を目的に、小人数のグループの話し合いや参加体験型の環境教育プログラムを実行してきました。このエコマインド養成講座を卒業した方が中心となって、千葉会議をつくりあげてくれたのです。

3．環境シンポジウム千葉会議

パートナーシップをテーマにしてきた「環境シンポジウム千葉会議」の特徴は、大きく3つあります。

一つは、市民・企業・行政が対等な立場で実行委員会を構成して、千葉会議の開催にかかわることをボランティア、手弁当で行っていただいているということです。

二つめは、本当の実行委員会であるということです。企画・広報・運営といった会議の開催に必要な意思決定権が本当に実行委員会にあって、しかも口だけではない、手も足も出しているということです。

三つめは、講演もありますが、基本的に千葉会議の重要な部分は分科会であると私は考えていますが、その分科会では、参加者全員が協力しあって、会議をつくりあげます。一方的に話を聞いて帰るという会ではないのです。

さて、この千葉会議の成果ですが、パートナーシップの概念を具体化してきたことにあると私は評価しています。実行委員会の中だけではなく、分科会の話し合いを通して、市民・企業・行政の方たちの出会いと対話がなされてきました。そのコミュニケーションや合意形成の体験をとおして、異なる主体間の理解がすすんできたと考えられます。

（財）千葉県環境財団の重要な役割も評価したいと思います。千葉会議を費用の点からも、事務局という役割でも支えていますが、市民・企業・行政といった異なる部門の間にたって、それらを接着剤のように結びつけるコーディネーターの役割をはたしてきたわけです。それだけでなく、それぞれの市民団体は独自の目的のためにグループが存在しているのであって、そのような市民団体のゆるやかなネットワークのかなめとして、環境財団のような立場はとても便利なものといえましょう。企業におきましても、同じようなことがいえると思います。

しかし、ＮＰＯ法が動き出した今、このようなコーディネーターの役割をになおうというＮＰＯがでてきています。この「環境パートナーシップちば」は、まさに千葉県の環境保全活動団体のネットワークを促進し、市民・企業・行政のパートナーシップを推進することを目的として活動しています。

5年継続してきましたこの千葉会議ですが、次のステップに乗り出す時期になっているのではないでしょうか。

この千葉会議の後ですが、千葉会議1995～1999を開催した実行委員の方が集まって、お祝いの会を開きました。市民も企業も行政も、垣根なく和気藹々と歓談している様子は、本当に心温まるものがありました。私はこの千葉会議から、本当に多くのものをいただきました。皆様に心からのお礼を申し上げます。

環境シンポジウム1999千葉会議に参加して

ちば環境情報センター　小西　由希子

５年という節目にあたり、実行委員として参加した立場から少し冷静に評価してみたい。

まず、１．パートナーシップの実現ができたか？――パートナーシップで問題を解決することはなが～い道のりなのだということ。そしていろいろな方法（資金・人的協力や情報・場の提供など）があるのだということに、やってみてはじめて気づいた。２．実行委員だけの自己満足ではなかったか、やらされていただけではなかったか？――う～ん、これは各自お考えいただくとして、３．参加した全ての人が環境問題を意識した行動につながっていったか？――１つの経験をお話ししたい。私の所属する生まれて１年目の小さなグループ「エコチュウ」では、見学会や学習会だけで外へむけての活動はこれまで何もおこなっていない（このことに私は少々不満であった）。しかし、「この１年で暮らしの中の意識がすごく変わった」と多くのメンバーが話してくれたことに驚かされた。「人を動かすにはまずは自分が動くこと」なのだ。

今後続けるか否か（第５分科会ではシンポジウムの継続にむけて白熱した議論が展開された）、運営の方法など多くの課題がある。毎年新しい参加者があり広がりを感ずるが、関心を示さない人へのより積極的な働きかけや実行委員としてのより主体的なかかわりが大切であると考える。シンポジウムを通してたくさんの人と知り合い、多くの経験をさせていただいたことを心より感謝している。

環境の輪を広げる ―団体会員の活動紹介―

「使い捨て消費社会」にサヨナラ

茂原市リサイクル推進委員会　大木　一男

ゴミ問題が全国的に重要課題の１つになっています。「行政」が根本的ゴミ減量やリサイクル推進を、「企業」が自主規制や循環型製品生産を、「住民」が積極的なリサイクル活動を、今こそ３者が一体となって協力し真剣に対策を実行する時です。

平成４年「茂原市リサイクル推進委員会」が発足し、５年より自治会選定リサイクル専門ステーション市内650ヶ所で、透明ビン・茶色ビン・黒青色ビン・生ビン・アルミ缶・スチィール缶・紙類と新聞紙・雑誌・ダンボール・紙パック類・衣類の分別回収を始めました。

茂原市は全市的にリサイクル組織を作り活動しています。国道128号線バイパス予定地はゴミ不法投棄の格好の場所でした。拾っても拾っても増え続けるゴミの対策として、私たちの自治会は「地域をきれいにする運動」を計画し、効果的に推進するために「花いっぱい・環境美化・ゴミ減量リサイクル・明るいまちづくり運動」を20年間ほど続けてきました。自治会ぐるみ・地域ぐるみでの協力がなければ、効果的事業推進も改善もできないことを体験しました。

また、大勢の人達に積極的に協力してもらうには、自らが率先して実践することが最も大切なことだと体験し、私は家庭ゴミを削減すべく「生ゴミ・燃えるゴミ」搬出ゼロを、10数年続けています。

連絡先：〒297－0074　茂原市小林2614－6
ＴＥＬ　0475－24－2277

「市民による環境調査」

事業部スタッフ　末松　大司

最近は、市民が自ら環境調査をおこなうことが多くなっている。環境調査は環境教育のために行うだけではなく、データを指し示すことにより、環境活動を行うための「武器」とする手法もとられるようになってきた。そこでいくつかの基本的に考慮すべき点について書き上げてみたい。

まず、サンプリングは何を知りたいかによって採取の仕方が違う。例えば植物を採取する場合、木の年齢・高さ・方向・気象データなどの違いによって、かなりの違いが出る。これは他の水や大気についても言えることであり、何を知るための調査かを明確にし、サンプリングを行う人全員が同じ認識を持って、取り組まなくてはならない。

次にパックテストなどで数値を出す測定方法だが、一般的には誰にでもできる手法として使われている。しかし、人によっては吸い込む量の多少があったり、薬品の取扱いに不備があるとか、反応時間を間違えることなどもある。また、色で判断する場合には個人差が生じたり、水の状態（色・共存物質）によっては、はっきりした数値が出ない可能性もある。そのため、パックテストなどの簡易測定方法は、[出る・出ない] を判断するためだけの方法とし、そのデータから見たい個所をピックアップし、分析機関に依頼して、正確な数値を出すことをお勧めする。

これらのデータを一般公表する場合は、①何が原因か②それがどのようにして被害をだしたのか③その調査方法④結果からどのような対策をとったか（とりたいか）とその理由などを示さないと、変な誤解を生じてしまう場合がある。

例えば、マスコミ報道でよくあることだが、中間報告で数値が変わることもあると記者に説明したにも係らず、注意書きもぜずに、いかにも正式発表されたデータであるかのようにして出すことや、「その月だけ」と理由もはっきりしているのに、大きく基準値から外れた数値があると、それが平常値のような書き方をして、世間を騒がせてしまうこともある。

以上のような事に注意をしながら環境調査を行うならば、環境活動の更なる発展に貢献していくものと信じている。

垣間見たドイツの環境事情

エコプラザ21　服部　洵

環境先進国ドイツへ、9月末から2週間。単なる観光旅行に終わらせないよう心して出かけてきました。まず気づいたことは、信号もそこそこあるのに中心街での車の渋滞が少なく、ヨーロッパの他の都市に比べて空気も澄んでいることでした。車が少ないのは何故か、それには郊外に広大なパーキング場を設け、路面電車を利用し街に出る所謂パークアンドライドでしたし、空気のきれいなのはバス等のアイドリング完全ストップにありました。渋滞により貴重な時間をロスするのは馬鹿馬鹿しい事との教訓を得ました。

ゴミについては、公園やアウトバーンのパーキングエリアにも充分大きな収集設備があり、ホテルで部屋の屑篭の中身もメイドさんが分別仕分けし、回収車がそれらを取りにきて、ゴミは資源の一部ということが徹底される一方、トイレットペーパーは全て再生紙使用でした。

また、街の中心部にある大きな木にはフクロウの表示板がつけられ、この木の小枝も切ってはならないとか、網の目のように走るアウトバーンには野や森から生き物達が路面に入ってこられないように保護柵が設けられているなどの、自然への優しい思いやりが見られ、小鹿が遊び、森の上空にはタカが舞っている自然との共生が実感されました。

「几帳面なドイツ国民だから可能」と言わず、私達もみんなでできることから徹底すれば、わずかな費用で効率的な環境改善が図れるとの思いを強くし、多くのことを学んで帰国しました。

「北千葉導水事業関連施設見学会に参加して」

エコマインド・パートⅡ　田口通夫

利根川と江戸川を結ぶ約30㎞の新しい川＝北千葉導水路の見学会を、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」で30余名の会員が参加し、秋晴れの11月9日（火）に実施しました。手賀沼・坂川周辺地域の洪水対策、手賀沼等の水質浄化および都市用水の確保を図るのが主な目的です。

昭和40年代に始まる首都圏への人口集中により都市化の進んだ手賀沼流域では、それまで遊水池としての働きもした田畑が住宅地へと変貌、洪水被害が起こりやすくなっています。手賀川の改修および80㎥／sの排水機場を設置することで、既設の手賀機場とあわせて120㎥／sを手賀沼から利根川へと内水排除しています。浄化用水を最大10㎥／s注水することにより、汚濁濃度の軽減および水の滞留時間を、現在の15日程度から5日程度にすることで、24年間続いたワースト1の記録が破られるのかと期待しています。もう一つの目的である都市用水確保のために最大40㎥／sを導入することで、水質源の有数活用が可能になります。

12年4月からの本稼動に向けて機能確認のための通水試第3回目（10月26日から11月10日まで）を、見学しました。前回データによると手賀大橋地点でＣＯＤが22㎎／ℓであったが、手賀沼容量の半分を注水したことにより14㎎／ℓになりました。10日経過してもＣＯＤは11㎎／ℓであり、急激な水質の変化は確認できなかったが、今回は手賀沼容量の140％800万トン注水の予定で期待がもてそうです。このあと坂川を通じて県水道局などが取水している江戸川に注ぎ込まれ、夏場に不足しがちな都市用水の確保の調査を行うそうです。

第2機場から手賀沼への放水を確認してから、手賀川の流水の一部を浄化することで、利根川に対する汚濁負荷の軽減を図る「手賀川浄化施設」を見学しました。そのあと印西市発作にある揚排水場のポンプ場と管理棟を見せてもらいました。北千葉第1・第2・第3機場の運行管理、及び利根川と手賀沼の水位・流量の把握も行い、流域の安全確保に大きな役割を果たすものと期待しています。

連絡先：柏市東逆手1－7－14
ＴＥＬ０４７１－７２－６１２９

「ケナフ」人気はいつまで続く

非材木紙普及協会　荒井　進

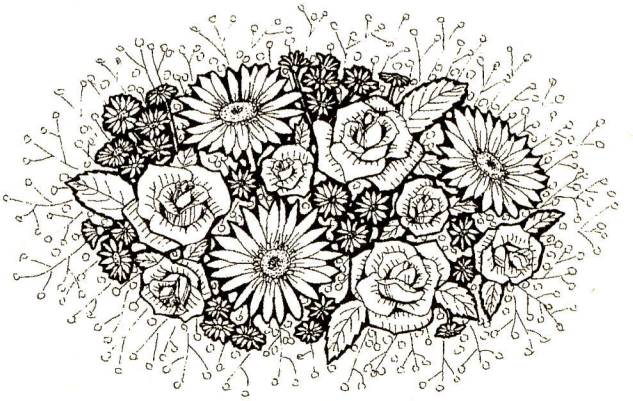
最近は、インターネット・新聞・雑誌・テレビなど盛んにケナフが報道されるようになり、ケナフの普及にたづさわる者として喜ばしい限りである。

今年は、千葉（土気）、船橋、佐倉、野田、印西、白井町、鎌ヶ谷、八千代、関宿で会が立ち上がった。更にそれらをネットワーク化したかたちで「千葉ケナフ普及連絡協議会」が設立された。各地のケナフ栽培・紙すき指導に汗を流した実感から、この環境に優しい植物ケナフが、又来年同じ場所で花を咲かせ、子ども達に喜んでもらえることを夢みている。

来年は、国営公園（立川市の昭和記念公園）が募集していた21世紀に向けた新しい公園づくり「夢プラン'99」に、「ケナフ栽培と紙すき」が採用され来春5月から実施されるなど、ケナフ人気は続きそうだ。

私は、9月に北海道士別市を訪問し、ケナフ栽培地の視察・市長との懇談・ケナフ講演会を行った。また、11月は九州福岡市を訪問し、県庁・市の環境部との懇談、ケナフ講演会をした。原鶴温泉では旅館組合長始め、女将達が湯里おこし会をつくり、「ケナフ」を温泉おこしの素材としてとり入れるための勉強会に、講師として参加した。驚いたのは、九州の温泉地までケナフが栽培されていたことと、福岡から甘木市までの国道沿線に、ケナフ栽培地が多数見られたことだ。これも福岡ケナフの会会長の熱心さと感激した。門屋会長や釜野教授と帰路の飛行機の中で、ケナフ人気はまだまだ続きそうだなあと安堵し合った。

連絡先：東京都中央区日本橋茅場町2－6－8
ＴＥＬ０３－３６６７－３９５３



情報コーナー　イベント案内

イベント(行事)名	日時(曜日)・場所	テーマ（内容）	問合せ先（担当者）	その他
定例園内観察会	毎週日曜日 （1／2は除く） 13：30～ 行徳野鳥観察舎	冬枯れの行徳鳥獣保護区を歩き鳥たちや、木の実・草の実などを観察。	野鳥観察会 047-397-9046 （蓮尾）	雨天中止
森からの贈り物	12／3（金） 15：00～17：00 千葉市女性センター	森からの贈り物 木の実と枯れ枝の壁かざり、クリスマスリースづくり	ちば環境情報センター 043-223-7807	定員20名 雨天実施
かんたんな草木染め	12／3（金） 14：00～17：00 千葉市女性センター	木の枝、雑草、くるみ、玉ネギの皮など、身近な素材を使ったかんたんな草木染め	くらしのグループ 043-279-6690 （佐々木）	定員20名 雨天実施
女だって森づくり 下泉・森のサミットの挑戦～	12／3（金） 10：00～12：00 千葉市女性センター	雑木林づくりに立ち上がった女性たちと市民による実践報告。	エルコープ 043-292-8015（永田）	参加無料
真間山観察散歩	12／4（土） 13：30集合 市川市手古奈霊堂	斜面林や都市の中の季節の移り変わりなどを観察し4時頃解散。	江戸川環境ネットワーク 047-375-2987（平松）	参加費200円 小雨実施 申し込不要
自然観察	12／4（土） 14：00～15：30	落葉をテーマにスケッチ法を学ぶ。 松戸まちづくり交流室テント小屋	交流室テント小屋 043-367-8889（田中）	参加費500円
環境フォーラム	12／5（日） 御宿町公民館ホール	まちづくり環境	リサイクルグループ「かもめ」 0470-68-3529（永島）	
フリーマーケット	12／5（日） 11：00～14：00	ブランドバザール 松戸まちづくり交流室テント小屋	交流室テント小屋 043-375-2987（田中）	
ちば市ネイチャーゲームの会	12／5（日）	冬のネイチャーゲーム大会	047-472-1386 （田久保）	
かしわネイチャーゲームの会	12／5（日） 永楽台児童センター	冬のネイチャーゲームとクリスマスリースづくり	0471-69-3154（土谷）	
森のボランティア	12／　7（火） 12／18（土） 9：00～12：00 丸山市民の森	カブトムシ牧場づくり 森の掃除、納め会	丸山サンクチュアリ 047-438-4041（井筒）	
自然観察会	12／8（水） 10：00～12：00 泉谷公園（JR鎌取駅）	住宅地の中に残された“身近な自然”に触れる。 余裕のある方はお弁当持参で。	カワセミの会 043-292-8015（永田）	参加無料 雨天中止
エコプロダクツ1999	12／10（金）～ 12（日） 東京ビックサイト東展示場	○企業展示 ○楽しみながら環境問題を学ぶ ○グリーン購入シンポジウム 事例発表・セミナー多彩に開催	エコプロダクツ運営事務局 〒101-0047 千代田区内神田1-6-10　笠原ビル10F 03-5281-1550	
よし笛づくりのためのよし刈り	12／11（土） 10：00集合 京成佐倉駅北口ロータリー	印旛沼のふとーい「よし」を刈りとってすてきなよし笛をつくります	ちば環境情報センター 043-223-7807	参加費200円 要申し込み 雨天中止
さくらネイチャーゲームの会	12／11（土） 市民の森広場	冬のネイチャーゲーム	043-486-1936（有賀）	
ネイチャーゲーム	12／11（土） 10時～ 手賀の丘少年自然の家		〒270-1456 東葛郡沼南町泉1240-1 0471-91-1923	
スターウォッチング	12／11（土） 君津亀山少年自然の家		〒292-0526 君津市笹字片倉1661-1 0439-39-2628	一般40人
マリンサイエンスギャラリー （企画展）	12／12（日）まで 県立中央博物館分館海の博物館	貝達の巧みな生活 ――食生活にみる貝の世界	〒299-5242 勝浦市吉尾123 0470-76-1133	月曜休み

イベント(行事)名	日時(曜日)・場所	テーマ（内容）	問合せ先（担当者）	その他
クリスマスリース作り教室	12／12（日） 清和県民の森		〒292-1179 君津市豊英660 0439-38-2222	有料３０人
手賀沼探鳥会	12／12（日）・ 1／9（日） 9：00集合 我孫子市役所	手賀沼の小鳥を中心に観察、あれば双眼鏡を持参	我孫子野鳥を守る会 0471-87-2222（島崎）	申込不要 参加費無料 雨天中止
定例新浜観察会	12／12（日） 1／9（日） 10：00～15：00 東西線行徳駅前	新浜保護区コース 江戸川放水路経由コースの２コース。 日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会と共催予定	野鳥観察舎 047-380-0337（東）	交通費実費 昼食・飲み物持参。
夜空のロマンを求めて	12／14（火） 手賀の丘少年自然の家		0471-91-1923	一般１００人
森のボランティア	12／14（火） 9：00～12：00 藤原市民の森	カブトムシ牧場づくり 森の掃除、納め会	丸山サンクチュアリ 047-439-8361（大西）	
自然観察	12／15（水） 9：00集合 江戸崎・スーパーたつみ駐車場前	オオヒシクイの観察 社教バス使用	047-438-9568（国司）	要弁当 参加費１，０００円
省エネ生活がしたい	12／17（金） 14：00～17：00 環境パートナーシップオフィス 渋谷区神宮前5-56	第３回E'sセミナーIN東京 主催　中部リサイクル運動市民の会	地球環境パートナーシッププラザ TEL 03-3407-8107 FAX 03-3407-8164	要申込
エコ・ウォーキング	12／19（日） 10：00集合 渋谷駅ハチ公前	東京川紀行・北沢川を歩く。	江戸川環境ネットワーク 047-375-2987（平松）	定員３０名 昼食持参 小雨実施
谷津干潟自然観察	12／23（祝） 8：30集合 東武馬込沢駅 9：00集合 京成谷津駅		丸山サンクチュアリ 047-447-3590（片野）	雨天中止 要申込
お正月用ミニ門松の作り方	12／25日（土） 13：30～ 青葉の森公園	緑の相談所緑の教室	〒260-0852 千葉市中央区青葉町977-1（月曜休み） 043-208-1510	往復はがきで申し込み（１通につき１人１講座申込１４日前必着）
夕暮れ観察会	12／25（土） 1／22（土） 16：00～18：30 行徳野鳥観察舎	冬の夕暮れの風景と鳥たちの様子を観察。カモたちが飛来。	野鳥観察舎 047-397-9046（蓮尾）	
千駄堀自然観察会	12／26（日）・ 1／23（日） 9：00～12：00 21世紀の森と広場	冬の生き物観察	047-346-2878（山田）	申込不要 参加費無料 雨天決行
初日の出とスズガモの群を見る会	1／1（祝） 6：00集合 行徳舞浜海岸	三番瀬で初日の出をおがみませんか。おしるこ、とん汁をお楽しみに。	野鳥観察舎 047-397-9046（蓮尾）	行徳ラジオ体操会と共催予定。
草木染めを楽しむ会	11／14（日）・ 12／5（日） 10：00～16：00 市川市女性センター	自分の染めたいものを染める自由染めの講座。身近な植物が対象。	江戸川環境ネットワーク 047-375-2987（平松）	参加費１，０００円 材料費実費
新年のつどい	1／15（土） 10：00～12：00 あびこ市民プラザ	・色紙交換 ・年頭迷談デーダラボッチ談	ふれあい手賀沼の会 0471-84-6734	会員または平成１２年度入会者に限る
谷津田と湧水の里を訪ねて	1／15（土） 10：00～13：00	「ちば・谷津田フォーラム」のメンバーと一緒に千葉市緑区大藪池周辺をたずねます。	ちば環境情報センター 043-223-7807	参加費３００円 要申し込み 小雨実施
スターウォッチング“冬の星座とギリシャ神話”	1／29（土） 18：30～20：00 市原市農業センター(安須) (雨天の時は翌日)	環境庁提唱全国星空ウォッチングネットワーク事業の一環として、スバルの観察を行う。	市原ネイチャークラブ TEL 0436-43-1019 FAX 同上	筆記具・ライト・防寒具（衣類・寝袋・毛布など）敷物 参加費３００円

「関さんの森を育む会」を訪ねて

広報部長　縣　和子

新松戸は高層マンションが林立する新興住宅地だが、駅の反対側に「関さんの森」がうっそうと広がっている。お父さんが1994年に亡くなり、関さんは森を自然のまま残そうと、(財)埼玉県生態系保護協会へ約1．1haの「関さんの森」を寄付した。

しかし、その団体が遠方なので森を維持管理するのは難しかった。そこで、地域の皆が森を有効活用し価値を理解することで皆の森として守ろうと、1996年「関さんの森を育む会」を結成した。ザリガニ取り、梅干し作り、フキやタケノコの朝取り、タケから作った箸・茶碗・筒で食べる流しそうめん、野草のテンプラ、タケの炭焼きなど会員のアイディアを具体化し行事としている。

去年、近隣で開発計画が持ち上がり、関さんは、建築業者に手紙を出し、この地域は湧水が豊かなので、予定の公園をビオトープに変更して欲しいと相談した。幸い社長がドイツを視察して環境問題に理解があり承諾が得られた。地元の生態系を壊さないようにと、畑の土を運び、メダカを放し、森の苗木を移植した。太陽発電・木枠の塀などエコを考えた住環境として共同通信で紹介され、全国からの入居希望者、行政や建築業者の視察も相次いでいる。

訪問シリーズ

これからは緑が無くなった場所に緑を再現する開発があってもいいのではないか、生き物にとって良い環境は人間にとっても良い環境なはずだ。最初は森の管理が目的だったが、今では地域の自然を残したいと関さんはネットワークを広げている。

環境学習フェスティバル

日程　11月20日（土）・21日（日）
会場　さわやかちば県民プラザ
TEL 0471－40－8604
主催　さわやかちば県民プラザ・
千葉県環境財団

環境学習推進を目的に、パネル展示・ケナフ料理と紙漉き・親子エコクッキング等々が企画されています。「環境パートナーシップちば」は、エコチェックと環境活動パネル展示で参加します。

エコプロダクツ1999

日程　12月10日（金）～12日（日）
会場　東京ビックサイト東展示場
主催　産業環境管理協会・日経新聞

循環型社会構築にむけ、生産者と購買者・消費者が一体となりエコプロダクツ（環境調和型製品）の普及促進を図る目的で開催。あらゆる分野250社の出展があり、私たちは環境ＮＧＯ展示コーナーに、「グリーンコンシューマー関東ネット」として参加します。

会の部だより

〈環境パートナーシップちば〉

入会申込書（該当するところを○で囲んで下さい）

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）会費を添えて入会します

氏　　名			
住　　所			
Ｔ　Ｅ　Ｌ		Ｆ　Ａ　Ｘ	
申込み先	TEL043-246-2180　FAX043-246-6969		
年　会　費	個人1，000円　団体2，000円　賛助会員5，000円		
会費納入先	郵便振替口座　00160-9-401872　環境パートナーシップちば		

編集後記

二酸化炭素を吸収する森林は、地球温暖化防止など欠かせない存在の「恵みの森」。しかし、戦後の人工植林のうち400万haが間伐期を迎えながら、ほとんどが放置され、「荒れる森」となっている。

来年度から林野庁では、チェーンソーを使って作業するボランティア「さわやか間伐隊」を募集したり、家具・植木鉢・ブランコなど間伐材製品を、環境にやさしい製品として「間伐材マーク」を付けて売り出すそうだ。間伐材を有効活用し、地球環境の保全に役立ってほしいものだ。

広報部長　縣　和子

この「環境パートナーシップちば」だよりは、再生紙を使用しています。